

平成 19 年度 助成対象者研究報告書概要

【保育所】

(敬称略)

研究の種類	研究テーマ・研究報告概要	研究者
研究 A (自主研究)	<p>「気がかりな子ども」に対しての個々の環境を考える 子ども達にとって育ちやすい環境とは</p>	<p>福井県 社会福祉法人 竹伸会 玉ノ江保育園 荻原 慶子</p>
	<p>保育所の「気がかりな子ども」の特徴を理解し、その子ども一人ひとりに合わせた環境・支援のあり方を探るため、記録をもとにして保育の場を振り返る研究。 子どもたちの世界観や気持ちの変化などを注意深く観察し、詳細なエピソード記録を作成。また、職員間でそれをもとに振り返りを幾度も行い、問題の共有や理解の進展、取り組みの強化なども図られ、保育者のかかわり方の変化が見受けられた。</p>	
研究 A (自主研究)	<p>違いを認め、理解しあう保育・一人ひとりが主人公になれる保育支援を目指して クラス集団にかえす小グループ保育の研究・実践</p>	<p>静岡県 社会福祉法人 みんなの森福祉会 どんぐり保育園 中村 紀子 池野 友絵</p>
	<p>「気になる子」の育ちを確かなものし、自信をもってクラス集団に入れるよう小グループの取り出し保育を行った。 「気になる子」の特徴に合わせ、 「ことば」の持つ思考機能を育む。 「ことば」の持つ伝達機能を育み、コミュニケーション力を高める。 「ことば」の意味を知り、調整機能を育む。 絵本を用いて、「ことば」の理解を促す。 以上、4つの小グループ保育を試みた研究。 子ども・保護者への倫理的配慮も十分に行いながら、綿密な記録をもとに、小グループ保育の有効性を実証した。</p>	
研究 B (専門研究)	<p>幼老複合施設における高齢者と幼児の世代間交流の効果に関する研究</p>	<p>福岡県 社会福祉法人 二葉会 砂山保育園 小林 哲治</p>
	<p>より効果的な世代間交流プログラムの検討のため、幼児の保護者の意識調査結果と、高齢者の主観的健康度を世代間交流の効果評価の指標とした研究。 世代間交流は、日常的なかかわりが重要であり、交流の継続のためには、幼児だけでなく高齢者にとっての疲労感や負担感にも着目して、交流活動を企画する必要があることがわかった。</p>	

【児童養護施設】

研究の種類	研究テーマ・研究報告概要	研究者
研究 A (自主研究)	<p>児童養護施設における家族再統合プロセスに関する質的研究 –退所事例の検討も含めて–</p> <p>児童養護施設における「家族再統合」プロセスに着目し、一時帰宅の実態や児童および家族の心の揺れについて質的に分析することを目的とした研究。</p> <p>施設職員が児童および家族の心の揺れをどのように観察しながら支援しているのかを把握するため、半構造化面接を行いその会話を分析した。また、質問紙調査のデータをもとに退所児童の事例を5つ提示し、「家族再統合」プロセスについて検討を行った。</p>	<p>東京都 社会福祉法 六踏園 調布学園 菅野 恵 (本基金より2年間助成)</p>
研究 A (自主研究)	<p>グイン・ホームにおける、被虐待児と発達障害児の自立支援計画の作成</p> <p>学識者の協力のもと自主研究会を重ねながら、個別の支援計画を一人ひとりの特性を踏まえて作成し、その評価・見直しを行った研究。</p> <p>現場の視点に立った自立支援計画書の様式として、内容の単純化を図り、長期・中期・短期目標が一連の流れをもって計画されなければならないこと、また特に自己評価の低い児童に対しては短期目標が重要であることが認識された。</p>	<p>兵庫県 社会福祉法人 グイン・ホーム 金坂 雅弘</p>

【乳児院】

研究の種類	研究テーマ・研究報告概要	研究者
研究 A (自主研究)	<p>社会的養護入所児童の自立援助計画表の標準化に関する研究 乳幼児期に焦点を当てて</p> <p>乳児院での自立支援計画表について、ケアの連続性を担保するために、児童養護施設と共通に使えるものであり、かつ社会的養護施設退所後の自立という長期目標達成のため、他者との関係性の再形成に着目した内容の検討を行った研究。</p> <p>乳児院、児童養護施設職員による合同ミーティング開催やケース会議への相互参加、また他施設へのヒアリング調査などを行いながら、計画書およびアセスメントシートを作成した。</p>	<p>山梨県 社会福祉法人 山梨立正光生園乳児院 黒澤 朋子</p>